

第67号

令和5年3月1日

みちびき

【関市少年センターだより】

発行

関市協働推進部
生涯学習課
関市少年センター
電話〈0575〉23-7777

関市少年センター運営委員会・関市少年補導員連絡協議会

新型コロナウイルスの感染再拡大等により、第3回 関市少年センター運営委員会・関市少年補導員連絡協議会を紙上開催としました。その内容は、関警察署の方や各地域の少年補導員からお聞きした本年度の少年補導活動や冬休みの中央補導の現状、春休みの計画等です。



冬休みの中央補導の状況

子どもたちの冬休みの状況を把握するため、例年は関市少年補導員連絡協議会の役員で行う中央補導も新型コロナウイルスの感染再拡大等により少年センターの職員のみで下記の通り実施しました。

○日時 令和5年1月5日(木) 19時00分から20時40分

○場所 大型ショッピングセンターのゲームコーナーとフードコートを中心に巡回しました。

○状況 冬休みで正月明けまもなくということで、幼児を連れた若い夫婦や高齢者などで混雑した店舗で、小学生・中学生・高校生と出会いました。

また、カラオケ店の店舗内を巡回しないかわりに、周囲を巡回しました。高校生がよく通うと思われる店舗の外には数台の自転車が置いてありました。コロナの制限が緩和されて、子どもたちの様子もコロナ禍前に戻りつつあると感じました。

令和4年度 関警察署 年末特別警戒 出発式

昨年の12月1日(木)午前11時より、関警察署の駐車場で、関署管内の交通安全と犯罪ゼロを願って年末特別警戒出発式が開催されました。

出発式には、関警察署員と少年補導員連絡協議会の三島会長、関市少年補導員や他のパトロール団体など多くの方が参加しました。関警察署長から、「慌ただしい年末の交通安全と振り込め詐欺などの犯罪ゼロを目指しましょう。」との挨拶がありました。その後、警察のパトロールカーに続いて青色回転灯車両が続き、年末の交通安全と青少年の非行・犯罪防止に向けたパトロールに出発しました。

(写真)



子どもたちが新しい学年を安心して迎えるために

—家庭や地域で見守りたいこと—

近年は、子どもたちを取り巻く社会環境が著しく変化しています。スマホを持つ年齢が下がり、家族や友だちといつでも連絡が取れたり、分からないことをすぐ調べたりできる反面、使い方を誤ると様々な問題が生じる危険が伴います。

まもなく、小学生・中学生・高校生が、春休みを迎えます。そして、新しい進路や新しい学年の生活が始まるまで自由に使える時間があります。それに伴い、スマートフォン（スマホ）などを利用してインターネット（ネット）に接続する時間も増えます。この時間が子どもたちにとって心の隙間になる場合もあります。そこで、子どもたちをネットの被害から守り、新しい学年を安心して迎えるために、家庭や地域でスマホ等の問題点と利用法について考えてみましょう。

1 子どもたちを脅かすネット上の犯罪・トラブル

(1) スマホ依存から子どもたちを守るために

子どもたちがスマホを使う上で直面するリスクに、「スマホ依存」があります。子どもたちのスマホへの依存度が高くなると、「視力低下」「うつ症状」「引きこもり」などの依存症と思われる行動が起こってきます。スマホの依存度について次のようなチェック表を使って子どもたちと話し合うことも有効です。

- ① スマホを忘れると遅刻してでも取りに戻る。
- ② なからスマホをしている（食事、風呂など）。
- ③ 授業中でもスマホが気になる。
- ④ スマホ以外に楽しいことがない。
- ⑤ スマホが鳴っていないなくても鳴っていると錯覚する。
- ⑥ リアル友だちより、ネット友だちの方が多い。
- ⑦ ファミレスなどで友だちといてもずっとスマホをいじっている。
- ⑧ 一日のほとんどをスマホをいじって過ごす。
- ⑨ スマホがないと不安になる。
- ⑩ スマホをいじっていて失敗したことがある。



(2) ネットトラブルから子どもたちを守るために



スマホを使ったネットへの依存が高くなるほどトラブルに巻き込まれやすく、起こしやすくなります。ネットに関わっては、「不正アクセス禁止法」「青少年保護条例」「著作権法」などの法令に違反する問題もあります。子どもたちが「不正アクセス禁止法」に触れる違法行為とは知らずに、犯罪の加害者になってしまった例として、小中学生が、ネット上で知り合った人からIDとパスワードを聞き出し、窃盗を行ったとして補導されたという事件も報告されています。

さらに、「通信費用等の課金」「心的被害」「いじめ」「出会い系サイト」「ウイルス」「迷惑メール」などのトラブルもあります。具体的には、ネットからの情報を利用して、爆弾、拳銃、覚せい剤を製造した大学生、「出会い系サイト」のトラブルに巻き込まれた高校生、親が知らない間にネットを利用して麻薬を取得した中学生などの事件が報道されています。

(3) 自覚、早期発見、対応が重要

子どもたちにとって身近で便利なツールであるスマホやネットについて親子で話し合い、利用状況を知ることは、スマホ依存に対する自覚を促し、早期発見につながります。また、正しい情報や対策を知ること、家庭でのスマホ利用の約束を決めたり、フィルタリングなどの制限をかけたりして、ネットのリスクやトラブルなどの危険を早期に発見し、回避することができます。それでも対応できない場合は、学校や警察に相談して協力を仰ぐことも重要です。

子どもたちをスマホ依存、ネットトラブルから守り安心して新しい学年を迎えることができるように見守りましょう。

